

第6回 小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨

■日 時：令和4年11月11日（金）15:00～17:20

■場 所：小石原川ダム管理所1階説明ホール

■出席者：（委 員）古賀部会長、馬場委員、松井委員、真鍋委員、山根委員
（事務局）8名
（オブザーバ）福岡県朝倉県土整備事務所、東峰村

■配布資料：

- ・議事次第
- ・資料-1 出席者名簿
- ・資料-2 小石原川ダムモニタリング部会の設置について
- ・資料-3 小石原川ダムモニタリング部会 規約
- ・資料-4 小石原川ダムモニタリング部会の公開方法について
- ・資料-5 第5回小石原川ダムモニタリング部会 議事要旨
- ・資料-6 令和3年～令和4年度小石原川ダムモニタリング調査結果等について

■審議内容等：

1. 小石原川ダムモニタリング調査の内容

小石原川ダムの湛水の状況やモニタリング調査の方針、内容等について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

2. 令和3年～令和4年モニタリング調査結果

令和3年冬季から令和4年秋季にかけて実施しているモニタリング調査結果について事務局より説明した。調査結果についての各委員からの意見は次のとおり。

- 試験湛水中にT-N、T-Pで高い値が出た理由を把握しておいてもらいたい。土砂流入が原因と思われるため、特に窒素については溶解性や懸濁性などの内容もチェックしておいた方がよい。
- 記述の前提となっている試験湛水中の現象をもう少し丁寧に記載し、わかりやすい記述内容としてもらいたい。
- 供用開始後のデータと試験湛水期間中のデータを比較するときは、試験湛水期間が延びた影響に注意して分析する必要がある。また、水質の評価は、より定常的な状態となった段階で行うべきであり、遷移状態である現時点で評価すべきではない。
- コア山の植生は回復してきており、獣害防止柵等の効果が出ているが、今後は柵等のメンテナンスが大事になってくる。

- コア山では草原が回復し、小型・中型哺乳類や食物連鎖の上位にある鳥類も利用しはじめていることから、草原という一つの生態系ができあがり、いろんな生物の生息地機能を持つようになったと言っても過言ではない。
- エビネの移植密度が高すぎる箇所があるので、プランターに移植して管理所で見せるなど、広報的に活用することを検討してはどうか。
- ビオトープのエコスタック下の地面が乾燥しすぎているので、太い丸太、竹をもっと密に積んではどうか。近隣にクヌギ林があるので、使用済みのほだ木等が利用できないか。

3. クマタカ保全検討会の報告について

クマタカ保全検討会の開催状況、審議内容を報告した。

4. 今後のモニタリング調査計画

今後のモニタリング調査計画について事務局より説明し、部会として内容を確認した。

以 上